

令和3年度 研究推進計画

江田島市立三高中学校

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

基礎・基本の定着と確かな学力の向上

－「わかる・できる・認められる」が実感できる学習過程の工夫－

(2) 主題設定の理由

本校は、これまでの研究の成果である人権教育の視点を踏まえた授業づくりを意識し、全ての教科・領域等において、協働的な学習を中心に据えた「わかる・できる・認められる」が実感できるための学習過程の工夫に取り組んできた。特に、昨年度は、「話し合いの仕方」の発達段階をランクアップさせるためにシンキングツールを活用し、授業改善を深化させた。これにより、学校教育活動に関する調査（3月実施）において、「話し合い活動は、学習内容の理解につながっている」の項目で、肯定的回答割合は87.1%となった。これは、新型コロナウイルス感染症対策のため十分な話し合い活動が仕組めなかったが、校内研修での学びを活かした成果であると考えられる。

一方、学校教育活動に関する調査（3月実施）において、「学習の振り返りにおいて、『もっと考えてみたいこと』『もっと調べてみたいこと』『もっと工夫してみたいこと』などを考えている。」の項目で、「よくあてはまる」の回答割合は32.3%にとどまり、生徒が主体的に学ぼうとする意欲や態度が十分に育成されていないことも明らかになった。また、令和2年度江田島市学力調査結果（2月実施）【表1】及び令和2年度実力テスト結果（11月実施）からは、基礎・基本の定着が十分に図られていないことが明らかになった。

【表1】令和2年度江田島市学力調査結果 ※2学年はL君を除いた数値

1学年	国	社	数	理	英
目標値	68.2	54.3	59.1	58.7	61.3
本校	57.5	58.6	65.7	67.2	72.0

2学年	国	社	数	理	英
目標値	67.4	55.3	58.8	59.3	55.0
本校	69.1	55.3	59.6	69.0	57.8

【表2】令和2年度実力テスト結果 ※2学年はL君を除いた数値

1学年	国	社	数	理	英
県	68.3	79.7	57.2	78.2	60.2
本校	49.5	50.3	54.5	65.8	60.2

2学年	国	社	数	理	英
県	66.3	59.5	65.6	67.6	74.2
本校	58	40	59	55	51

これらのことから、学力向上は本校の喫緊の課題である。

そこで、昨年度と同様の研究主題の基、校内研修を通して協働的な学習に係る共通理解を図り、協働的な学習を取り入れた授業改善を一層深化させる。そして、わかる授業から学力向上を生徒自身が実感できるようにし、生徒の基礎・基本の定着と確かな学力の向上を図りたいと考えた。

(3) 研究仮説

全ての教科・領域等において、「わかる・できる・認められる」が実感できるための協働的な学習を中心に据えた学習過程の工夫を行えば、生徒の基礎・基本の定着と確かな学力の向上が図れるであろう。

(4) 研究内容

① 学習活動づくり (教務部)

ア 協働的な学習を中心に据えた学習過程の工夫

- ・「本質的な問い」から設定した「主体的な学び」に向かうための課題の吟味
- ・協働的な学びを取り入れた学習方法の工夫
「学び合い」活動（「何を」「誰と」「どのように」学ぶのか）ができる授業づくり
- ・ICTの効果的な活用
- ・話し合いの仕方の充実（シンキングツールの活用，ワークシートの工夫） など

イ まとめ・振り返りの充実

- ・単元全体を通して付けたい力の明確化
- ・「まとめ・振り返り」から逆算して設定する教育活動の実施

ウ 個別最適な学びの実現

- ・個のつまずきの把握
- ・家庭学習を定着させるための取組の推進

② 人間関係づくり (生徒指導部)

ア 生徒主体の取組の推進と検証

- ・特別の教科道徳と関連付けた行事や学級活動等の取組の推進
- ・縦割り班などの異学年交流を積極的に取り入れた行事や活動の実施
- ・生徒質問紙等の実施及び検証

イ 掲示物の工夫

- ・ユニバーサルデザイン化
- ・自分らしさを出し，お互いの良さを共有できる掲示
- ・自己肯定感や自己有用感を高める掲示

(5) 検証の指標・達成目標

【基礎・基本の定着に係ること】

- ① 3学年の抽出生徒において，実力テスト（令和3年11月）の数・英の正答率40%未満を0人にする。（ただし，外国人生徒及び特別支援学級生徒を除く）
- ② 2学年の抽出生徒において，江田島市学力調査（令和4年1月）の数・英の正答率が令和3年1月調査を上回る。
- ③ 1学年の抽出生徒において，江田島市学力調査（令和4年1月）の数・英の正答率が令和3年1月調査を上回る。（ただし，外国人生徒及び特別支援学級生徒を除く）

【確かな学力の向上に係ること】

- ① 学校教育活動に関する調査において，「話し合い活動は，学習内容の理解につながっている」の項目の「よくあてはまる」の割合 … 55%
- ② 学校教育活動に関する調査において，学習の振り返りに関して，「学習の振り返りに関して，『もっと考えてみたいこと』『もっと調べてみたいこと』『もっと工夫してみたいこと』などを考えている。」の項目の「よくあてはまる」の割合 … 35%

2 検証計画 ※各教科の研究授業における授業評価を随時実施する。

時期	生徒の学習状況・意識による検証	時期	生徒の学習状況・意識による検証
4月		11月	実力テスト（3年）
5月	全国学力・学習状況調査（3年）	12月	学校教育活動に関する調査による意識調査②（全学年）
6月	実力テスト（3年）	1月	江田島市学力調査（1・2年）
7月	学校教育活動に関する調査による意識調査①（全学年）	2月	
9月		3月	学校教育活動に関する調査による意識調査③（全学年） 研究のまとめ及び次年度の方向性
10月			

3 校内研修計画

時期	内 容
4月 30日	○今年度の研究の方向性について ○ICTを活用した授業改善の方策 ○ユニバーサルデザインによる学習環境づくり
5月下旬	○ICTを活用した授業改善の方策 理論研修 ・抽出生徒の学習のつまずきを起点にした授業改善 ・協働的な学習を中心に据えた基礎・基本の定着が図られる授業づくり （「本質的な問い」とは、「主体的な学び」に向かう課題提示）
6月下旬	○シンキングツールを活用した協働的な学習の工夫について理論研修 ・抽出生徒の学習のつまずきを起点にした授業改善 （話し合いの仕方を充実させた「学び合い」活動）
7月下旬	○1学期の取組の振り返りと2学期の方向性の確認 理論研修
8月下旬	○1学期の課題を踏まえた理論研修 ・「本質的な問い」とは
9月16日（6H-）	○研究授業①（英語科：3学年）【市教研英語部会・江田島市外国語研修】 ・抽出生徒の学習のつまずきを起点にした授業改善 ・ICTを活用した協働的な学習の工夫について ・1学期の取組を踏まえた協働的な学習の工夫について
10月中旬（6H-）	○研究授業②（数学科：3学年）【市教研数学部会】 ・抽出生徒の学習のつまずきを起点にした授業改善 ・ICTを活用した協働的な学習の工夫について（振り返りの充実）
12月下旬	○2学期の取組の振り返りと3学期の方向性の確認
1月下旬	○研究授業①②の協議をふまえた協働的な学習・ICTを活用した授業改善について ・抽出生徒の学習のつまずきを起点にした授業改善 ・これまでの取組を踏まえた協働的な学習の工夫について
3月下旬	○研究のまとめ及び次年度の方向性

* 研修会の他に、毎月1回程度、校内研修会（服務規律、生徒指導、法規、特別支援教育、学校評価、研修報告、公金等、学籍管理）を実施する。

* 道徳科の授業については各学年団で事前打ち合わせをし、T1・T2等の役割分担を行う。

4 研究公開の予定について なし